

多言語教育の実際と異文化の共存に学ぶ

千葉県立千葉東高等学校 教諭 石井 俊幸

1 はじめに

マレーシア人の英語が上手であることや彼らが数カ国語に精通していることを随分前から知っていた。しかし、私にとって遠い存在だったため、特に注目もせず過ごしてきた。

ところが、平成 26 年 12 月 5 日 SMK BUKIT JELUTONG、平成 27 年 9 月 18 日 SMK SRI SENTOSA が来校し、身近な存在になった。その際、彼らが例外なく多言語を操れることやマレーシアには様々な民族がいることを引率者から聞き、興味を持った。全員マルチリンガルである事実は、英語習得で苦勞している日本人にとって驚き以外の何物でもない。どう教育すればそうなるのか？私は残念なことに、そのとき理由を聞きそびれてしまった。また、ムスリムへの対応をするために、本校の歓迎会で出すお菓子もハラール食品にするなど配慮をしたことを覚えている。実際、女子はヒジャーブの着用者と非着用者がおり、パフォーマンスでも中華系の踊りをする場面もあり、マレーシアの高校は単一民族で構成されていないことを初めて知った。

私は英語教員であり、実用的かつ結果を出せる英語教育に興味がある。その延長線上と言ってもいいが、上記の背景からも、マレーシア人は何故英語が上手なのか、何故多言語を話せるのか、多民族がどのように共存しているのか、等の疑問を持っていた。今回の派遣で表題について見聞すれば、これらの疑問の答えを見つけることができるのではないかと、また日本の英語教育にとっても躍進の突破口になる可能性があるのではないかと期待し、このテーマを設定した。

2 英語力比較

そもそも何を持って英語力が高いと言えるのか、その定義づけは様々あり比較は難しいが、ネットで TOEFL 比較を調べてみた。「2016 年の TOEFL 英語テストのアジア国別平均点・偏差値ランキング」によると、「日本はリーディング：アジア 31 か国中 21 位（偏差値 46）ライティング：24 位（偏差値 41）リスニング：27 位（偏差値 37）スピーキング：最下位（偏差値 27）スピーキングは世界 172 か国中でも最下位」とある。大まかに分類すると、マレーシアはアジアの中で 2 位グループに、日本は下位グループに位置すると言ってもいい。これはあくまで「TOEFL 受験者の比較」であって、「受験者数が違う」ので、厳密に言うと「国の英語力の比較にならない」という声もある。

しかし、実際にマレーシアを訪問し、交流校の SMK SEAFIELD の歓迎式や授業に参加して感じたことは、平均的な日本人の英語力よりマレーシアのそれは比較にならないほど高い。参観した生物の授業は、教科書も英語、全て英語だっ

TOEFL平均点・偏差値ランキング(2016年)

リーディング(アジア)

	点数(30点満点)	偏差値
1. シンガポール	24	69
2. インド	22	61
3. パキスタン	22	61
4. マレーシア	22	61
5. 韓国	22	61
6. インドネシア	21	57
7. クリスマス島	21	57
8. バングラデシュ	21	57
9. フィリピン	21	57
10. 北朝鮮	21	57
11. 台湾	21	57
12. 香港	21	57
13. スリランカ	20	53
14. ベトナム	20	53
15. 中国	20	53
16. アゼルバイジャン	19	50
17. カザフスタン	19	50
18. タイ	19	50
19. マカオ	19	50
20. ミャンマー	19	50
21. 日本	18	46
22. ウズベキスタン	18	46
23. ブータン	18	46
24. キルギス	17	42
25. トルクメニスタン	17	42
26. ネパール	17	42
27. モンゴル	17	42
28. カンボジア	15	34
29. アフガニスタン	14	31
30. タジキスタン	14	31
31. ラオス	13	27

● 世界172か国中107位 (偏差値46)

© 2016 Pearson Education, Inc. or its affiliate(s). All rights reserved.

TOEFL平均点・偏差値ランキング(2016年)

ライティング(アジア)

	点数(30点満点)	偏差値
1. インド	24	68
2. シンガポール	24	68
3. パキスタン	23	63
4. バングラデシュ	23	63
5. フィリピン	23	63
6. マレーシア	23	63
7. ブータン	22	57
8. ベトナム	22	57
9. 香港	22	57
10. インドネシア	21	52
11. カザフスタン	21	52
12. クリスマス島	21	52
13. スリランカ	21	52
14. マカオ	21	52
15. ミャンマー	21	52
16. 北朝鮮	21	52
17. 韓国	21	52
18. アゼルバイジャン	20	46
19. キルギス	20	46
20. タイ	20	46
21. ネパール	20	46
22. 中国	20	46
23. 台湾	20	46
24. 日本	19	41
25. ウズベキスタン	19	41
26. カンボジア	19	41
27. トルクメニスタン	19	41
28. モンゴル	19	41
29. アフガニスタン	18	35
30. タジキスタン	17	30
31. ラオス	17	30

● 世界172か国中128位 (偏差値42)

© 2016 Pearson Education, Inc. or its affiliate(s). All rights reserved.

TOEFL平均点・偏差値ランキング(2016年)

リスニング(アジア)

	点数(30点満点)	偏差値
1. シンガポール	25	73
2. インド	23	64
3. パキスタン	23	64
4. マレーシア	23	64
5. バングラデシュ	22	59
6. フィリピン	22	59
7. 香港	22	59
8. インドネシア	21	55
9. カザフスタン	21	55
10. クリスマス島	21	55
11. スリランカ	21	55
12. 韓国	21	55
13. タイ	20	50
14. ブータン	20	50
15. ベトナム	20	50
16. ミャンマー	20	50
17. 北朝鮮	20	50
18. 台湾	20	50
19. アゼルバイジャン	19	46
20. ウズベキスタン	19	46
21. キルギス	19	46
22. トルクメニスタン	19	46
23. マカオ	19	46
24. モンゴル	19	46
25. 中国	19	46
26. ネパール	18	41
27. 日本	17	37
28. カンボジア	17	37
29. アフガニスタン	16	33
30. タジキスタン	16	33
31. ラオス	15	28

● 世界172か国中142位 (偏差値38)

© 2016 Pearson Education, Inc. or its affiliate(s). All rights reserved.

TOEFL平均点・偏差値ランキング(2016年)

スピーキング(アジア)

	点数(30点満点)	偏差値
1. シンガポール	24	72
2. パキスタン	24	72
3. インド	23	65
4. フィリピン	23	65
5. カザフスタン	22	59
6. ブータン	22	59
7. マレーシア	22	59
8. 香港	22	59
9. アゼルバイジャン	21	52
10. インドネシア	21	52
11. ウズベキスタン	21	52
12. クリスマス島	21	52
13. スリランカ	21	52
14. バングラデシュ	21	52
15. ミャンマー	21	52
16. アフガニスタン	20	46
17. キルギス	20	46
18. トルクメニスタン	20	46
19. ネパール	20	46
20. ベトナム	20	46
21. マカオ	20	46
22. 北朝鮮	20	46
23. 台湾	20	46
24. 韓国	20	46
25. カンボジア	19	39
26. タイ	19	39
27. タジキスタン	19	39
28. モンゴル	19	39
29. ラオス	19	39
30. 中国	19	39
31. 日本	17	27

● 世界172か国中最下位タイ (偏差値27)

© 2016 Pearson Education, Inc. or its affiliate(s). All rights reserved.

た。生態系や食物連鎖について、各班で調べた成果をローテーションでクラスメートに説明していた。本校生徒も各班に入り、その発表を全て聞いて回ったが、マレーシア人の英語力は非常に高く、その流暢な英語の説明について行くのに必死だった。私は TOEFL の成績差が示すように、マレーシアと日本では英語力の差は、歴然としていると実感した。



3 多言語教育の実際

(1) 英語が流暢な理由

私の表題の核心部分は現地の方の声によるところが大きいと思っていたのでセランゴール州教育機関(Selangor State Education Department)訪問時に、時間の制約から質問できなかった時は正直困惑した。しかし、SMK SEAFIELDにおいて軽食交流の際、現地の先生方と会話する機会があり、ホッとした。マレーシア人が英語を流暢に話せる理由を尋ねたところ、管理職の1人が笑顔でこう答えた。「先ず話すこと。話さないで上手くはならない。親も英語を話すので、必然的に子供も英語を話す。授業でも英語を学んでいる。」明快な答弁で、なるほどと腑に落ちた。

親も英語を話す理由は、イギリスの植民地政策の産物としてマレーシア人がイギリス人から英語を学んだと考えられる。歴史的には、ポルトガル、オランダの支配下になった時期もあるが、「1824年イギリスの統治下に」置かれ、「1941年日本軍によるマレー半島侵攻、1945年大戦終結により再びイギリスの支配下に」置かれた。「1948年イギリスの保護国として、マラヤ連邦成立。1957年8月31日マラヤ連邦独立。1963年マレーシア連邦成立。1965年シンガポールがマレーシア連邦から脱退」したが、マレーシアはイギリスに190年近くの長きに渡り、大きな影響を直接受けてきた。現在も53あるイギリス連邦の加盟国の1つでもある。

私は日頃から小さな子供は言語の天才だと思っている。なぜなら、1度見聞きしただけで覚えてしまうことがよくあるからだ。また、発音も聞いたままに再現できるからである。そのような点において、幼稚園や小学校から早期英語教育を実施しているマレーシアの政策は、理にかなっていると思う。

また、マレー語もアルファベット表記であるため、マレーシア人の英語に対する垣根は日本人のそれと比べると、はるかに低いと考える。家庭でも、学校でも、街中でも、誰もが普通に英語を使う環境が整っている。

(2) 多言語を話せる理由

マレーシアはマレー系、中国系、インド系に加え、先住少数民族のいる多民族国家であり、「公用語はマレー語であるが、中国語、タミル語、英語は教授言語となっている。小中学校では、民族別にマレー語、中国語、タミル語が学校によって異なって使用されており、いずれの学校でもマレー語と英語が必修科目になっている。」つまり、マレー系の人々は少なくともバイリンガルであり、中国系、インド系の人々は必修言語に自分たちの民族言語を加えると、少なくともトライリンガルということになる。これに方言を加算すると、歴としたマルチリンガルである。

事前宿泊研修に来たマレーシアの留学生に聞いてみると、小さい頃から友達と話すときは、様々な言語が飛び交っていたとのこと。例えば、誰かがマレー語で話したと思うと、英語、中国語、あるいはタミル語で返し、またマレー語が出て来たと思うと、別な言葉で会話が続くことに違和感を持たなかったらしい。ただし、例えば、タミル語を理解できない人がいる場合、その言語を除いて会話をするなどの配慮はあったとのことである。様々な民族の友達と話をしてきた留学生の中には、マレー語、英語、中国語とタミル語の4つの主要な言語に加えて、方言と日本語をしゃべれるという学生もいた。学校で教わっていない言語も会話することによって、徐々に話せるようになったらしい。日本語は来日してから勉強したとのことだが、まさに言語の天才と思えた。

ところで、先生は何語で授業をするのだろうか？B&Sプログラムに参加した大学生の1人が、先生次第と答えた。すなわち、先生が誰によるかで授業で使われる言語が異なる。例えば、マレー語、英語、中国語と日常で3カ国語を使う学校では、特に違和感なく授業を受けているようである。

4 異文化の共存

(1) 四大宗教の共存

「マレーシアの国教はイスラム教と定められている。しかし、多民族国家であることから、憲法では信仰の自由が認められている。」このため、「宗教間の対立もなく、」人々は「平和に共存して」いる。世界中の多民族国家を見ても、人々が宗教間の争いや対立なく、マレーシアのようにイスラム教、仏教、ヒンドゥー教、キリスト教の四大宗教が共存しているのは珍しいことだと思う。

(2) 多民族文化の共存

企業視察で訪問した東京海上ライフの岡部氏は、マレーシア人は優しく友好的であると私たちに語った。彼によると、大らかで、時間にルーズな一面がある

ものの、長く何度も食べるなど楽しく生活しようとする特徴がある。

私はマレーシア訪問前から経験上、英語に精通するようになると、言語の特徴からか、自己主張する人が多くなるものだと思っていた。しかし、私の視点ではマレーシア人は、それとはほど遠く、明るく、礼儀正しく、親切で、融和的であると思う。治安の良い面も日本に近く、親近感を感じた。

マレーシア政府観光局のハンドブックによると、「マレーシアの人々は、お互いの文化を尊重し合う姿勢がしっかりしている」とある。この「異文化に対する寛容性」のお陰で、それぞれの民族が調和して生活しているのだろう。例えば、ムスリムへの配慮から、宗教上不浄な豚肉を肉売り場に陳列しない。食べる人は「ノンハラール店」でそれを買う。このことについてイスラム教徒は、豚肉の販売や購入について非難したりしない。これが他宗教信者への配慮とも言える。お陰で、マレー料理、中華料理、インド料理、ニョニャ料理のような多様な食文化が味わえ、マレーシア文化に深みを与えている。

余談になるかもしれないが、私はカンポンステイ用のプロフィール用紙を変更させていただいた。1度提出した後、写真を差し替えることができ、つくづく良かったと思う。実は最初、愛犬と一緒に撮影した写真を添付したが、その後の事前研修でイスラム教の代表的な戒律を学んでみると、犬は不浄な動物になることを知り、ペット抜きで写真を撮り直した。私は、マレーシア人が実践している相手の文化尊重を私自身も実践することができたことで、バングリス村ホームステイに向けて、必要なマナーを守れた気がする。

5 おわりに

日本は先進国であるが、マレーシアはどうだろうか？ASEANの中では、もちろん先進国として主導的な役割を果たしている。言語教育や異文化共存の観点から見ると、最進国と言っても過言ではない。それでは、日本はどうだろうか？外国語教育という観点から見ると、発展途上国であると認めざるを得ない。日本人は異文化に対してはどうだろうか？「違いに対して寛容になれないところ」があるかもしれないが、マレーシア人同様に親切で融和的なので、異文化に目が慣れてくれば、やがて寛容的になれるような気がする。

では、日本人が遅れを取っている英語教育とその改革案について、研修を終えての私見を述べてみたい。冷静に考えると、マレーシア人にとって英語は親がしゃべる言語であり、厳密に言うと、外国語ではないかもしれない。マレー語は公用語であり、みんながしゃべる。中国語やタミル語は民族言語で親がしゃべるので外国語ではない。どれも外国語ではないかもしれないが、3～4カ国語くらい普通に話せるのがマレーシア人の特徴であり、強みでもある。見方を変えると、日本人が英語を得意ではないのは、親がしゃべれないからであり、日常生活で使わないからだと考えられる。あるいは、英語教育があまりにも拙いから。それでは、どうすれば良いのか？例を挙げると、未来の親、すなわち、生徒が不自由を感じることなくしゃべれるように英語教育を飛躍的に向上させる方法を実行する。例えば、教育特区を設立したり、言語の天才と呼ばれる児童時

期における早期英語教育を実施したりする。そのためには、教師の質を高めたり、ネイティブの先生をもっと雇ったり、日常英語を使う環境を実現したりする。あるいは、その環境を求め留学を奨励する。その環境には、英語話者がいることが不可欠である。そのためには、日本においてはビジネスで英語を使う人が日常的に必要になり、グローバル化が一層進む。思いつくまま案を挙げてみたが、実現に何年かかるかわからないほど難しいかもしれない。しかし、私はマレーシアの多言語教育の成功例の中に、私たちが発想を変えるだけで、日本の英語教育にとっても躍進の突破口になる宝石があるのではないかと信じている。

千葉県国際教育交流事業に参加して、様々な人からマレーシアについて学んだり、マレーシア人と話しする機会を頂いたりしたが、私の中で1番印象的なことは、SMK SEAFIELDの先生の笑顔の答弁である。英語が流暢な理由は何か？「先ず話すこと」。話さないで上手くはならない。これは明白な因果関係を示し、誰もが合点がいく。日本人の英語スピーキング力向上は、この本質的な言葉を意識した私たち英語教員一人ひとりの実践と生徒の前向きな取組みにかかっているとと言っても過言ではない。

【参考文献（資料）】

- <https://jp.chibicode.com/toefl-2016/>
- MALAYSIA 修学旅行ハンドブック マレーシア政府観光局
- <https://ja.wikipedia.org/wiki/マレーシア>
- <https://wakuwork.jp/archives/25979>